

研究最前線

広島工業大学 松本 慎平 先生

松本先生は、教育工学、メタヒューリスティクス、ソーシャルメディアなど幅広い分野を研究され、食流通に関連した情報システムの開発に势力的に取り組まれている。開発した情報システムを使い、地域や商店街と共同し、地域の活性化を図るなど地域から期待されている。

開発されているシステムの1つが食品産業を対象とした総合的情報管理システムである CMS パッケージ「食 CMS」である。食 CMS は地域の食生産・流通・消費分野の関係者が利用可能な情報共有システムであり、データベースシステムを用い、生産から消費までの食料の流通情報を統合的かつ包括的な管理を行っている。食 CMS は、商店街などにおける小規模店舗群でサービスに関する情報を収集・公開し、店舗間で情報を共有する全体的な収益向上を図る「店舗群 POS」という概念がベースとなっている。

食 CMS を利用することで、例えば、生産者となる農家では需要予測にもとづいた発注や生産計画の支援を行うことができ、的確な生産や販売が可能となる。また、飲食店側を消費者とした場合では、食材の安定供給・一括入荷による原価抑制、品質の保証が期待できる。松本先生のお話によると、「飲食店で料理の注文時に顧客が農産物の詳細情報(生産者、生産過程の写真や農薬量)を閲覧可能となり、その結果安心して料理を注文できる」という。食の安全が注目されている中、その解決策となり得る画期的なシステムと期待されている。



食 CMS の管理画面

食 CMS は、広島での地域振興を目的とし、NPO 法人を窓口として、広島市内の商店街や農業生産者の協力を得て実証実験が計画されている。食 CMS を導入することで、商品の受発注の効率化や販売機会の拡大による地域活性化が期待される。また、生産・流通間のサプライを対象としたシステム(Farmer's Information System, FIS)の開発にも携わっており、FIS は神戸市北区の農産物直販所“産直マルシェはっばや”で使用されたことがある。

食 CMS を用いることで、地産地消の促進、地域農産物のブランド構築が可能となり、地域に根差した農業振興・特産品の開発にも貢献できるという。今後は様々な地域やビジネスの領域でシステムを導入することで、農業経営の安定化や食料の鮮度向上、食品ロスの抑制、環境対策といった現代社会が直面する問題が解決されるだろう。

松本先生は、本 Chapter の若手研究会の実行委員としてもご活躍されている。情報システムに関して多岐にわたり活躍される松本先生のご活躍に今後とも是非注目していきたい。



IEEE SMC Hiroshima Chapter 正会員
 松本 慎平 博士 (情報科学)
 広島工業大学 情報学部 知的情報システム学科

専門分野：組合せ最適化、アルゴリズム
 所属学会：IEEE, 電気学会, 人工知能学会, 教育システム情報学会, 経営システム学会

http://www.it-hiroshima.ac.jp/faculty/information/information/teacher/matsumoto_simpei/profile/